



北上市×さくらホール feat.ツガワの挑戦… vol.3

グループ・インタビュー「花巻清風支援学校 北上みなみ分教室」編

※記載の部署、役職名は2024年当時のものです。

障がいのある子どもたちも 文化芸術の楽しさを みんなで享受できるまちへ

障がいのある児童生徒さんが通う学び舎へ

「さくらホール feat.ツガワ」（以下「さくらホール」）では、アーティストと一緒にホールを飛び出し、学校や病院・福祉施設をはじめ地域のコミュニティの場へ出かけ、ふだんホールに足を運べない人にも本物の文化芸術を鑑賞する機会を届ける「アウトリーチ」という取り組みを2006年からスタート。現在まで続くその取り組みは音楽の分野だけでも200回を超え、現在ではダンスや落語などの分野にも広がっています。

そんなさくらホールの「アウトリーチ」を昨年（2024年）初めて利用したのが、「岩手県立花巻清風支援学校 北上みなみ分教室 中学部」のみなさんです。

花巻清風支援学校は、岩手中部圏域唯一の特別支援学校として、花巻市にある本校（小学部・中学部・高等部）

のほか、北上市（小学部・中学部）、遠野市（小学部・中学部）に分教室を配置。地域に暮らす障がいのある児童生徒のみなさんに小学校・中学校・高校に準ずる教育を提供するとともに、障がいによる学習上・生活上の困りごとに対応する力をつけることや、自立を図るために必要な知識と技能も学べる機会をつくることなど、さまざまな教育活動を行っています。



その中で「北上みなみ分教室（小学部・中学部）」は、北上市立南小学校・南中学校に併設する教室として2017年4月に開室。以来、北上市に暮らす障がいのある児童生徒さんたちが、通常学級の児童生徒さんたちとも交流しながら学びを深めています。

北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して、ふだんは「ホールに来づらい」方たちやその関係者に話をうかがうグループ・インタビュー。第3回は、そんな「花巻清風支援学校 北上みなみ分教室」の職員の方々に、障がいのある児童生徒さんたちの文化芸術活動について話をうかがいました。



生徒さんも大喜びの「アウトリーチ」をさらに楽しく

グループ・インタビューは、「北上みなみ分教室 中学部」で昨年初めて実施した「アウトリーチ」の話題からスタート。中学部の生徒さんたちはコンテンポラリーダンスユニット「んまつーぽす」を学校に迎え、自由なダンスの楽しさを体験しました。その際、学校に「どんなアーティストたちがやってくるか」について理解を深めるため、事前学習としてYouTubeで「んまつーぽす」のダンス動画をみんなで視聴して準備をしていたため、

生徒さんたちは「あの人たちがやってくる！」とわくわくしながら当日を迎えたそう。

そうした先生方の配慮にも支えられ、当日のダンスも楽しい時間となり、生徒さんたちも大喜びだったと聞き、さくらホールのスタッフも「うれしさ」とともに、先生と連携することで「アウトリーチ」の可能性がさらに広がると今後が楽しみにになりました。



▲2024年度に「北上みなみ分教室」(中学部)で実施したアウトリーチの様子

今回も大成功した「アウトリーチ」ですが、さくらホールではダンス以外に「音楽」や「落語」なども用意しており、その内容についても意見をうかがうことに。

「アウトリーチ」を含め、こうした文化芸術の鑑賞や体験の場で先生方が日頃から大切にしているのが、児童生徒さんたちに「楽しかった」「感動した」「成功できた」という気持ちになってもらうことだそう。その積み重ねが「学ぶことが楽しい」「外に出ることが楽しい」という「わくわく」につながり、「また観たいね」「来年も体験したいね」という前向きな「学び」の気持ちにもつながっていくとのこと。

一方で「体験したけど楽しみ方がよくわからない」「観たけど内容がよくわからないから、もういいや」という気持ちにだけはなあってほしくないため、イベントや公演内容などをチェックし「ちょっとこの内容だと子どもたちには難しいかな」と思う場合は参加や利用を見送って、子どもたちの実態に合わせて自分たちで演奏家などアーティストを探してやってもらうこともあるそう。

そこで「アウトリーチ」の今後の取り組み方としては、先生方からの「こんな内容に変更できますか？」といった要望にも柔軟に対応できるように事前に打ち合わせをするなどの調整が必要だと実感。「アウトリーチ」に参加しているアーティストは、そうした内容の調整にも柔軟に対応できる点も魅力で、今後は先生方の要望にさらに寄り添えるような柔軟な対応力が重要になると気持ちを新たにしました。



▲北上市内の小中学生を対象に、2024年度に実施した「仙台フィルハーモニー管弦楽団演奏会」の公演の様子

教室ではできない「学び」もサポートできたら……

続いてグループ・インタビューは、児童生徒さんたちが日頃から興味を持って取り組むモノ・コトについての話題へ。ダンスや音楽は小学部・中学部ともに「大好き」で、その他にも「塗る・こねるといった感覚的な遊びが好き」「自由にやっているとよい」と言うと大喜びでやる。「トランポリンも好きで、車いすの子も車いすから降りて寝転がって遊んでいる」「水遊びや雪遊びが好き」「シャボン玉遊びも好き」とのこと。



▲「北上みなみ分教室」の職員のみなさん

その流れから「今後やってみたいこと」について尋ねると、「地域貢献で行ったベンチ塗装の経験から、大きなハケやローラーを使った活動があると喜びそう」「近くのクラスが普通授業をやっていると騒音になると思って諦めるけど、子どもたちは太鼓を叩くのも大好きそうで……」「音量を気にせず、思いっきり叩いたら……」「巨大なシャボン玉で遊べたら子どもたちも喜ぶんじゃないか」といった、学校にないものや教室ではできないアレコレが次々に飛び出しました。

さくらホールでは「アウトリーチ」はもちろん、大・中・小のホールを含め 24 の部屋があり、さまざまな文化芸術活動が自由にできる環境があります。もちろん太鼓も自由に叩けるため、学校ではできない「学び」を実現する空間として、さくらホールを有効活用していただくことも……。



▲さまざまな用途で利用できるさくらホールの部屋

そこで気になるのが「足＝交通」の問題です。児童生徒さんたちはバスに乗って出かけるのは大好きだそうです。花巻清風支援学校で所有しているバスは1台。それを花巻市にある本校（小学部・中学部・高等部）、遠野市の分教室（小学部・中学部）、「北上みなみ分教室」（小学部・中学部）で利用しており、それぞれの年間行事で予約が先に埋まっていくため、後になってイベントや新しい企画に参加しようと思っても、イベントの日とバスの空いている日がマッチせず、調整も難しいため、諦めざるを得ない場合もあるそう。

その部分のサポートとして、「北上市役所のバス」や車いすの児童生徒さんには「福祉タクシー」の活用などといったアイデアが登場。さくらホールでは、北上市内のすべての小中学生を対象とした青少年鑑賞事業を行っており、より多くの児童生徒さんが参加できるよう「福祉タクシー」も活用しています。そういったノウハウも活かし、北上市とも連携しながら、障がいのある児童生徒さんでも、さくらホールをさまざまな「学び」のシーンで利用できるようにするための意見交換もざっくばらんに行うことができました。



ちなみに、さくらホールが青少年鑑賞事業として昨年実施した「仙台フィルハーモニー管弦楽団演奏会」や、子どもの感性を豊かに育むことを目的として動物の演奏家たちが楽器を奏でる「ズーラシアンブラス」などの公演も観ていただいております。児童生徒さんたちが「前のめり」になって観るほど大好評だったと嬉しい感想もいただくことができました。

グループ・インタビューの最後に印象に残ったのが、「北上みなみ分教室」では通常学級の児童生徒さんと一緒に、同じ施設で、同じものを観て、同じ体験をし、感動を共有する機会を大切にしているという話。そうするこ

とで、地域に暮らす同世代の児童生徒さんたちとのふれあいや思い出を増やし、同じ北上市民として豊かな暮らしを育んでいってほしいとの想いがそこにはあるとのこと。さくらホールも文化芸術活動を通して、そうした先生方のお手伝いできればと改めて思ったグループ・インタビューでした。



▲2024年度に実施した「ズーラシアンブラス 音楽の絵本」

北上市とさくらホールが連携し、北上市で暮らすすべての人が平等に文化芸術を享受できるまちを目指して取り組む今回のプロジェクト。協力いただいた「北上みなみ分教室」の職員のみなさん、お忙しいなか貴重な時間をいただき、ありがとうございました。

今回みなさんからいただいた意見やアイデアを踏まえて、さくらホールでは2025年度から新たな事業を行う予定です。そちらも、どうぞ、お楽しみに！

◇岩手県立花巻清風支援学校の詳細はこちら！

<https://www2.iwate-ed.jp/hki-y/>